

2015年（平成27年）

ハタハタ情報 No.2

平成27年10月26日発行

中央水産試験場 資源管理部

Tel : 0135-23-8707 Fax:0135-23-8709

—後日にインターネットからもご覧いただけます— ↓

マリンネット北海道 : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/index.html>

水試調査船北洋丸によるトロール調査（留萌沖）の結果を報告します。

【調査期間】 2015年10月11日～10月15日

【調査海域】 留萌沖の水深200～300mの海域6調査点でトロールを曳網しハタハタの採集試験を行いました。計18尾（0歳魚を除く）の標本を採集し、体長測定などを実施しました。

- 採集状況は1マイル曳網あたり平均2.1尾と、昨年10月の調査をさらに下回る。先月の調査と同様に分布は近年の低水準。
- 1歳魚が61%と、先月の調査より若干2歳以上の割合が増えたが、成長が悪いため魚体は昨年より小ぶりになる見込。
- 成熟の進行は近年の傾向と同じかさらに遅い。沿岸前浜への来遊は11月末～12月初め頃か。

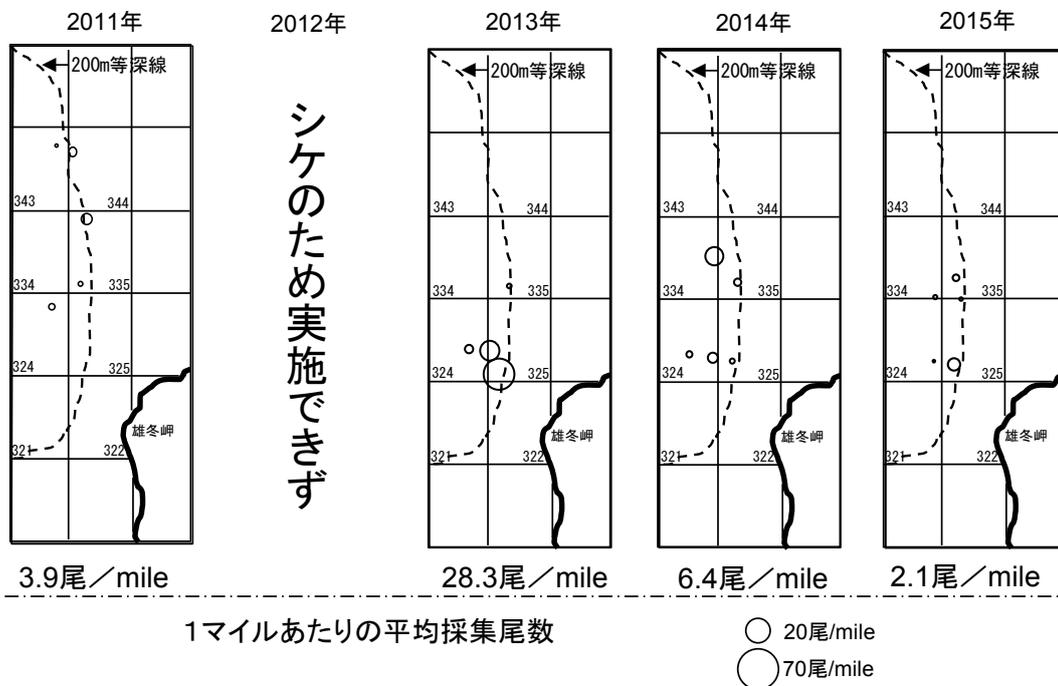


図1 10月トロール調査による採集尾数（0歳魚は除く）

1. ハタハタの分布状況（図1）

今回の調査での平均採集尾数は1マイルあたり2.1尾と、昨年同時期をさら

に下回り、過去最低の水準となりました。先月の調査で多く採集された未熟の1歳魚が採れず、漁獲対象となる1歳以上の分布は相当に薄い状況でした。

2. ハタハタの魚体サイズと年齢 (図2)

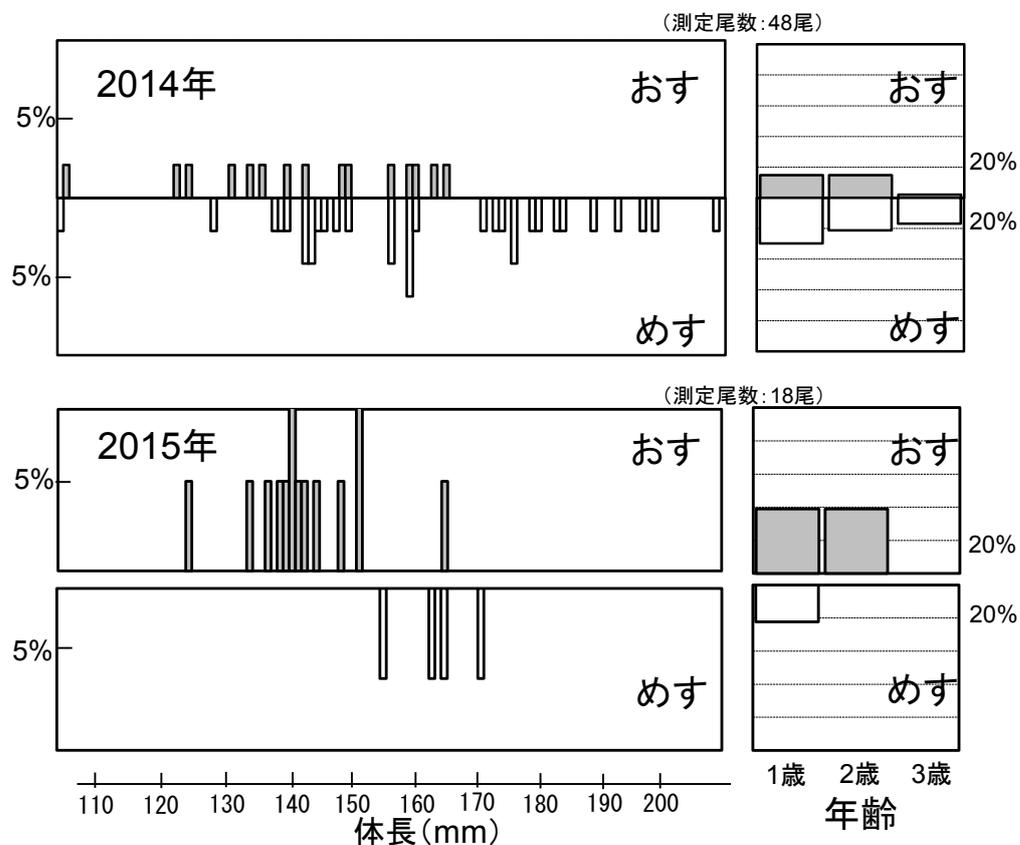


図2 今回の調査で採集されたハタハタの体長組成と年齢組成

上段図：昨年（2014年）調査 下段図：今回の調査 ※0歳魚は除く

今回の調査で採集されたハタハタの年齢構成は、1歳魚（2014年級）が61%、2歳魚（2013年級）が39%で、80%以上を1歳が占めた先月の調査と比べ、2歳魚の割合が上がりました。しかし、2歳魚の平均体長は雄で149mm（雌2歳の採集は無し）と、近年の傾向である成長低下が顕著であることから、今季の漁獲物のサイズ組成は、1歳と2歳の割合が同程度となった昨年より、さらに小ぶりの小型魚主体となるのではないかと考えられました。

3. 成熟状態 (図3)

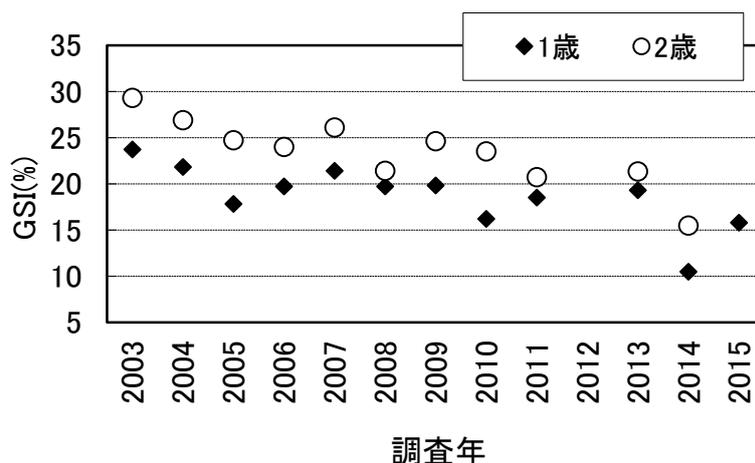


図3 毎年10月下旬のハタハタ雌のGSI (GSI=卵巣重量/内蔵除去重量×100)

ハタハタは成熟状態（生殖巣の発達状態）が進むにつれ、南下し沿岸にて産卵することが知られています。雌の体重に占める卵巣(ブリコ)重量の割合(GSI)は産卵が近づくにつれて大きくなり、沿岸に来遊する頃には40%前後の値となります。今回の調査で採集されたハタハタ雌1歳魚のGSIは15.8%であり、異常な低値となった昨年よりは高くなりましたが、例年の傾向と比べると低い値であることに変わりないことから、1歳魚の成熟の進行状態は今年も相当に遅いとみられます。沿岸への来遊時期は2歳魚が予想外に多い場合には若干早まる可能性もあるものの、1歳魚主体の来遊は11月末～12月上旬にかけ海況が荒れた後になるのではないかと考えられます。

4. 水温 (図4)

今回の調査の中で行ったCTDによる雄冬沖の表層から底層にかけての水温測定結果を、同時期の過去5年平均値と併せて示しました。水温躍層(水温が大きく変化する水深帯)は60m付近にあり、それより浅い範囲では平年並みですが、深い範囲では150m付近まで平年よりかなり高くなっていました。さらに深い範囲(ハタハタ分布水深)では平年並みです。

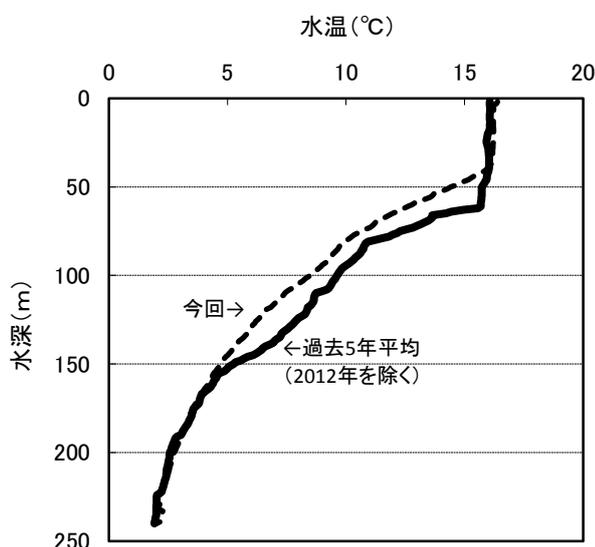


図4 雄冬沖の水温分布

5. 今後の調査など

今年度の雄冬沖における調査船トロール調査は終了です。関係漁業者の皆様、調査へのご配慮ありがとうございました。今後は、各漁業による漁獲物の標本採集調査などを実施いたしますので、重ねてご協力よろしくお願いたします。